



司会 秋葉理事



KIZUNA vol.35

contents

② 交流会開催

③ 特別講演

② 役員挨拶

④ 奨学生OB・OGから

② ③ 奨学生から

④ 第2回理事会

こだわる!《再生可能エネルギー》という用語



東海大学 名誉教授 元学長
公益財団法人
戸田育英財団理事・選考委員

田中 俊六

もう50年以上もむかし、学会では今でいう再生可能エネルギーを何と呼ぶべきかという熱い議論があった。新エネルギー、自然エネルギーなど様々あったが結論が出なかった。ずっと後になって登場したのが欧米で使われ始めたrenewable energyを誰かが直訳した《再生可能エネルギー》であり、まず学会で使われ始め、次いでマスコミが舶来語として多用し、内閣法制局が法律用語として認めて世に定着したのである。

ただ、この用語は各界で誤訳ではないかという疑問が根強くあった。私見だが、まず、renew(al)は第一義的には「更新」であり、再生の訳もあるが、少なくとも技術用語では「再生アルミ」などの再生(reclaim)であって、違う。さらに、renewableの-ableを再生可能と訳すと他者が可能とするという意味合いになるが、-ableには別に、何かに生来的に何かする能力があるという意味もある。例えば、太陽エネルギーは生来、時々刻々更新する能力があるということである。

かように見ると《再生可能エネルギー》は明らかに誤訳であり、例えば《更新性エネルギー》などとすべきであったのである。

この点、いまはやりのChat GPTに聞いてみると「……おっしゃる通りです。でも日本では《再生可能エネルギー》という言葉が定着しています。」という模範的な答が返ってきた。嗚呼!?

交流会開催

2024年12月8日(日)東京・神保町の学士会館(再開発のためここでの開催は最終)で開催されました。奨学生、奨学生OB・OG、学校関係者の皆様約100名の方々のご出席を賜り、1部講演、2部近況報告が行われました。



戸田 博子理事長 挨拶

交流会をこうして、引き続き開催出来て嬉しく思っています。この演台で現況報告をされることは難しいかもしれませんが皆様方の将来のお役に立てることと思います。楽しみに

拝聴いたします。



戸田建設 常務執行役員
瀬尾人事統轄部長 挨拶

本日の交流会は皆さん同士が繋がりを深め、お互いに刺激を受ける大変貴重な機会だと思っております。異なる専門分野やバックグラウンドを持つ皆さんが、この場を通じて新たなアイデアや視点を得られることを期待しております。そしてこの繋がりが将来にわたって続き、皆さんの貴重な財産となることを願っております。さて、私ども戸田建設の本社ビルが京橋に新たに完成し、引越しも無事に終わりました。ビルには飲食店やミュージアムがあり、28階からは屋上庭園に出られます。今の時期は夜景もきれいです。お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りいただきたいと思います。



早稲田大学 学生部奨学課
湯澤 圭子課長 挨拶

学生が、学生生活を送っていきけるのも経済的な支援だけではなく、一人一人の成長を温かく見守っていただいているような印象がございます。こういった奨学生にならないと出会えない人々というのは、貴重なチャンスだと思いますので、積極的に色々な交流をしていただきたいと思います。



東京大学OG 2012年卒業

今、育休中ですがOB・OGの方とは現役中からずっと連絡とっており、色々な職種の方とずっと出会えています。同期とかよく知り合う機会が多いでしょうが、ぜひ仲良くしていただけたら嬉しいですし、何か気になることがありましたらお声がけください。

北海道大学 4年

オイトマシンというニューロンなどに使われる抗生物質の研究を行っております。遺伝子が出来るといふ素敵なところもあり卒業論文まで行っております。大学院入試が終わりまして、今の研究室に来年からも勉強出来るようになりました。

青山学院大学 1年

アメリカとイギリスの小説や詩について学んでいます。文学部という垣根にとらわれず他学部の授業も色々取っています。部活動では手話部に所属して音のない言語も学んでおり、多くの事に挑戦して将来の可能性を広げていきたいと考えています。

慶應義塾大学 2年

今年は法律サークルの責任者をやっていて、パーベキューなどのイベントをします。また、大会では優勝をして勉強もやっています。3年生ではさらに責任者としての仕事があるので、一生懸命頑張りたいと思います。

芝浦工業大学 4年

卒業論文にあたる卒業設計に取り組んでいます。長野県の新幹線と在来線の接続する地点のリノベーションを題材に都市の拠点としての駅にどのような機能が求められるかという事を仮定して空間を設計する課題に取り組んでいます。

聖マリアンナ医科大学 3年

興味のある診療科が血液内科という白血病で有名な診療科ですが2025年ソウルで開催の国際学会へ参加し、スライド作成を手がけます。また英語を頑張らないといけないと考えています。

東海大学 2年

システムの電気・電子などの工学分野と医療分野の2つを学んでいて、将来は医療機器で大勢の人を助けたいと思っています。同じ目標に向かって頑張る友達や沢山の人の恵まれている環境で視野の広い人間になりたいと思っています。

東京大学 1年

法学部に進学して、司法試験を受験しようと考えています。実際にどうするのか決めていないので先輩方のお話を聞いて、身の振り方を考えていきたいと思っています。

東京大学大学院 2年

シミュレーションの勉強をしており、効率的な計算の方法がないということで、色々なプログラミングをして研究しています。もともと社会に貢献出来る仕事がしたくて、国家公務員(安全保障、研究開発)として働くことにしました。

東京音楽大学 4年

JPTAピアノオーディション(大学)優秀賞に選んでいただきました。地元の島根県の教員採用試験に合格しましたが、習いたいことが一杯残ってしたいものがあるので、大学院に進学予定です。これからも卒業演奏試験、コンクールの全国大会も予定されていますが、頑張ろうと思います。

東洋大学 3年

国税専門官の形で、公務員試験の勉強に励んでいます。法人税とか税を扱う仕事なので、仕事を通じて税金の知識を深めていけば、将来、自分の役に立つのではないかとモチベーションに勉強に励んでいます。

明治大学 3年

半年の留学ですが、米国のフロリダ州のウォルトディズニーワールドで活動して働きました。帰国後は翻訳について、文学作品とか映画を通じてどのように表現するか、本来のメッセージが書き変わるか研究しています。

立教大学 3年

カナダに留学して、多文化共生に関する研究を進めていました。人文科学部に所属しており外国人のもとに、日本の難民受け入れ、施策の推進を制度化していくことを目指しております。

特別講演



第1部講演では麒麟ホールディングス株式会社の常務執行役員 藤川 宏様から「社会課題への取り組みと企業価値の創造—麒麟におけるCSVの取り組み—」についての熱意あふれた講演が行われました。

講師の略歴は同社シンガポール社長、人事総務部長、CSV戦略部長また、日本サッカー協会人事部長(出向)等の経歴を持ち経験豊富な方です。

取り組み事例として

- ・酒類メーカーとしての責任
- ・健康の取組
- ・コミュニティの取組
- ・環境の取組

等を紹介され「世界のCSV先進企業」としての働きぶりを聴講しました。



早稲田大学 1年

2年からは倫理学と文化政策・文化芸術を都市活性化の学習に進めていきたいと考えます。高いGPAが必要なので学習を進めていきます。ドイツ戯曲を取り上げ、レポートをまとめています。

中央大学 4年

進学に向けて多くの研究所の訪問を通じて半導体についての研究を志望することが出来ました。今所属している研究室は超伝導体の研究で超電動車のハイテンションを抑制して回路を作って結晶の属性を固定するものです。

京都大学 3年

水素という物質は汎用性が高い物質で食糧問題に対応が出来ます。燃料電池も水素を入れることで電気がつき、電気自動車に使われます。太陽光から無尽蔵に作る事が出来れば社会に貢献出来る物質だと思っています。

立命館大学 2年

都市システム工学で、構造・防災を勉強しています。学園祭の運営と入試広報の学生スタッフを行っています。学園祭は花火も打ち上げ、フィナーレを大過なく終えることが出来良かったと思っています。

高知工科大学 4年

宇宙構造物とスペースデブリの勉強をしていましたが宇宙の燃焼系の研究室に進むことになりました。アンモニア燃焼に配属されますが、培った経験を活かしていきたいなと思います。

宇都宮大学 2年

中学校の社会科の教師になるための教職の勉強をしています。地元の中学校で実地の教科指導をしています。個人的に社会学に興味があり、社会の動向や構成する人々の分析を行い研究・調査をしました。

筑波大学 4年

体操をやっており、世界体操に出場しました。スポーツ心理学を専攻しており、アスリートのコンディションが心理側面からみてどう作用しているのかも、生活を共にして研究しています。

日本大学 2年

いろんな面から、町づくりについて学んでいます。御茶ノ水の理工学部のキャンパスを新しく作るという課題に取り組んでいます。ニコライ堂という歴史的な建物と新しいキャンパスの景観と町の関係について考えながら頑張っています。

京都大学 1年

再生可能エネルギーに興味を持って、学科を選びました。台風発電の会社を知ることが出来、会社のCEOのインタビューや紹介記事を聞かせてもらいました。またゴミ統括のサークルで、もっと効率よく回収出来たらいいなと思います。

同志社大学 3年

文系・理系にとらわれず、様々なことを行っています。麻雀の配当率を研究したり、結婚の歴史を用いたものの研究をしたり、趣味に合わせながら研究テーマを見つけていきます。剣道サークルに所属して幹事をやっています。

昭和女子大学 4年

一番注力したのは、授業・論文で「赤毛のアン」を題材にした英語の原文と日本語の翻訳の本を比較して、文法的な表現の違いとか、脚注の在り方について研究を行いました。英語を交えての仕事をしたいと思いから、就職活動を行いました。



奨学生OB・OGから

『AI法学からの検討』

慶應義塾大学(院) 2012年 卒業



私は、憲法・行政法を専門に研究をしており、論文執筆、授業、翻訳を行っております。今回、台湾での国際シンポジウムに報告者として参加してきました。皆様ご存知のように、現在あらゆる業界でAIを中心とする

デジタル技術の推進及び対応に迫られております。法学においても、イノベーションを推進しながら人々の安全と自由を守る方法が検討されています。特に、AI規制では、EUのように広域的な対応が必要であり、日本にとっては東アジアでの連携が重要です。今回、台湾の成功大学で開かれた「The Theory and Practice of Digital Constitutionalism in East-Asia Countries」と題した会議で、「AI Hard Law vs. Soft Law in terms of Legislator's Duty to Evaluate and Reform the law」として、私は憲法的統制の新しい手法について報告しました。約15年に及ぶ基礎研究がAI領域へと活かせることが判明し、思わぬところで役に立つという研究の醍醐味を実感しています。専門はドイツ憲法ですが、家族の都合で仕事を5年ほど離れてアメリカで出産子育てをしました。その際、英語力の向上に努めるなど、そのときに出来ることをしたことが役立っています。戸田育英財団には主婦時代にも変わらずお声がけいただき励みになりました。奨学生の皆様が良いときも悪いときも乗り越えて人生を楽しめるようお祈りしております。

『10年先を見据えて』

芝浦工業大学(院) 2008年 卒業



2024年の交流会では、弊社のCSV (Creating Shared Value:イノベーションによって社会課題の解決を事業化すること)について講演がありました。毎年の近況報告では時間も限られ、弊社の魅力をお伝え出来ていませんでしたが、今回の講演で弊社に興味を持ち、就活の候補の1つになっていただけたら幸いです。私自身、

新卒採用面接官の経験もありますので、就活で何かありましたらお気軽にご相談ください。

前置きが長くなりましたが、10数年ぶり2回目の投稿となります。

前回の投稿時は就職して2、3年目で、目の前の日々の業務に邁進していました。それから10数年経ち、振り返ってみると震災や天災、コロナ禍、デジタル化社会といった社会環境、結婚や子供が生まれるといった家庭環境、社会人としてはメンバーから管理職の立場など、多くの変化を経験し、対応してきました。

次の10年先がどうなるかわかりませんが、漠然と日々過ごすのではなく、何かしらの目標を定め、また、今後の変化に対応するために「新しいことに好奇心をもって挑戦し学び続ける」、「強み(専門性)を磨き、多様な視点・価値観をもつ」といったことに是非取り組んでいただけたらと思います。

2024年度 第2回理事会(2025.2.18)

各議案が議決されました。

- 第1号議案 2025年度事業計画
- 第2号議案 資金調達・設備投資
- 第3号議案 2025年度収支予算
- 第4号議案 奨学金概要の改定
 - ①奨学金の給付金額
 - ②応募資格
(家計支持者の年収)
 - ③他の学外奨学金(併給)
- 第5号議案 役員の報酬に関する規定



戸田理事長挨拶



戸田建設大谷社長挨拶



イラスト 寺尾有里彩(育英財団OG)

事務局だより

みなさん日頃から周りの人に対して感謝の気持ちを伝えていませんか？

「ありがとう」は誰もが使える最もシンプルな言葉ですが、その言葉の影響力はとても大きく、感謝の気持ちを伝えることにより、個人や組織にとってさまざまなポジティブな効果があるそうです。私自身も自分がしたことに対して感謝されると、誰かの役に立ったことを実感出来、報われたと感じると同時に、さらに頑張ろうと、前向きな気持ちになります。また、感謝の言葉を受けるだけでなく、自らが「ありがとう」を伝える行動にもストレス軽減効果があるそうです。

特に多くの人々に関わる環境では、日常的に「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えることで、個人の心やチーム全体の雰囲気は更に良くなる可能性があります。ぜひ、みなさんの周りでも「ありがとうの文化」を意識的に育て、チーム力や信頼感をさらに高めていってください。

(折原)

